

## 富士山測候所は 9 月 3 日に閉所し、65 日間にわたる夏期観測活動を終了しました

認定 NPO 法人富士山測候所を活用する会は、9 月 3 日（金）富士山測候所の商用電源を切り、12：24 閉所いたしました。15 年目の夏期観測となった今年は、新型コロナウイルス感染症に対する万全の対策のもとで、65 日間の観測期間に延べ 282 人の研究者が 26 プロジェクトを実施しました。研究成果は 2022 年 3 月開催予定の第 15 回成果報告会で発表する予定です。

NPO 法人富士山測候所を活用する会は、気象庁から富士山測候所庁舎の一部を借り受け、毎年 7 月、8 月に公募で選ばれたグループの研究・活用に供しています。昨年はコロナ禍で研究者の登山ができず、夏期観測は中止のやむなきに至りましたが、今年は万全の感染症対策を講じた上で、実施する事業も継続のものだけに絞って 26 プロジェクトとしました。

トピックスとしては大気中のマイクロプラスチック他の観測、噴火予知につながる微量ガスの観測、窒素酸化物の観測、PM2.5 の観測などの大気化学集中観測をはじめ、雷グループ、微生物氷晶核の観測、微小電力による長距離通信の特長を生かした各種通信法に関する研究、昨年度の太郎坊に続き山頂における地磁気の精密観測の開始など、限られた時間と空間を最大限生かした研究活動が行われました。次年度のさらなる利用拡大につながることを期待されます。

今年度のプロジェクトの一部は、一般財団法人新技術振興渡辺記念会からの受託事業、大成建設自然歴史環境基金および一般財団法人 WNI 気象文化創造センター・気象文化大賞の助成により実施されました。

2020 年の閉所中もバッテリーで観測を続けた国立環境研究所のグループは、中国国内の経済活動低下に伴う二酸化炭素濃度の微弱な変動を世界で唯一捉えることに成功しましたが、そのバッテリーの 2 年越しの充電も無事行われました。研究環境としての御殿場市街地の基地事務所、太郎坊における観測も継続されています。期間中の電源に関しては、大型台風などの風雨の影響で 1 回の停電、発電機への切り替えはあったものの、山頂管理者（山頂班）が雨漏りや強風による庁舎の被害やその周辺の劣化に、日々対処し、大きな問題にならず、これまでの最長となる 65 日間の夏期観測を無事終了することが出来ました。

今季の夏期観測で得られた研究成果は、すでいくつかの学会で発表したプロジェクトもありますが、ウェブサイトに順次掲載するほか、2022 年 3 月開催予定の第 15 回成果報告会で発表いたします。



8 月 30 日研究機材の撤収作業を終えた、加藤理事